

No. 1555

献血に協力を

— 東京・埼玉 —

7月は「愛の血液助け合い運動」月間です。

7月8日には埼玉県浦和市文化センターで「第23回献血運動推進全国大会」が開られ日本赤十字社名誉副総裁の皇太子殿下のおことばのあと美智子妃殿下から献血50回以上の功労者などに日本赤十字社有功章が授与されました。

厚生省のある東京霞ヶ関の合同庁舎の講堂でも斉藤厚生大臣を始め職員が献血に協力しました。

昨年1年間の献血者数は約860万人。献血量は184万リットルに達しました。

しかし需要の多い「血漿」は90%以上が輸入されている状態です。

血液の大切さを理解してこれまで以上に献血に協力したいものです。

竹下派 113人

— 田中派分裂 —

自民党田中派（木曜クラブ）の常任幹事会が7月1日東京平河町の同派事務所で開られました。

総裁候補一本化が協議の議題とはいえ竹下、二階堂両グループに歩みよりの余地はなさそうと幹事の議員の集まりもバラバラ。

2時間の会議の結果は一本化をめぐる話し合いは決裂、党内最大派閥の分裂が確定しました。

会議を終えて出てくる各グループの幹事の表情も梅雨空のようにくもり気味です。

15年間、「鉄の結束」を誇った田中派もついに幕。

7月4日、竹下派の結成集会在都内のホテルで開られました。田中派141人中113人が参加、結成早々から党内最大派閥となり田中派は竹下派113人、二階堂派15人、中間派13人と三派に分裂しました。

「経世会」と名付けた新派閥の会長に選出された竹下氏は記者会見で秋の総裁選に向けて「津々浦々から出ている期待にこたえなければならないと思っている。切差琢磨した健闘することを誓う」と決意表明しました。

10月末の自民党総裁選に二階堂、宮沢、安倍の三氏と共に竹下派の旗上げがポスト中曽根をめぐる政局に波紋を広げそうです。